

# 令和6年度 白川郷学園 技術・家庭科研究構想

## 研究主題

### 学びのひとりだちを目指す授業の創造

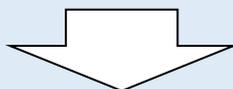
#### 技術・家庭科で願う子どもの姿

技術の見方・考え方（「社会からの要求」「安全性」「環境への負荷」「経済性」）を働かせ、家庭生活や地域・社会全体の問題から課題を設定し、身に付けた知識や技能から解決策を構想する姿  
実践的・体験的活動を通して、試行錯誤しながら、願いの実現や課題の解決に向かう姿

#### 児童・生徒の実態

○課題解決に意欲的に向かうことができる。また学習状況に応じて、協力して製作したり、助言し合ったり、仲間と協働して学習を進めることができる。

▲家庭生活や、地域・社会について、生活の営みに係る見方・考え方や、技術の見方・考え方を駆使して課題を見出したり、解決策を構想したりする経験が少ない。



## 研究内容

### ○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

#### (1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・今日的な課題や生活とのつながりを感じることができる、魅力のある題材の提示
- ・十分な追究時間（実践的・体験的な活動）を確保する

#### (2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・生徒にとって適度抵抗があり、多様な解が期待できる追究内容の設定
- ・スモールステップで知識や技能を身に付け、それをもとに自ら解決の見通しがもてる指導計画

#### (3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・単位時間や単元の終末に、実習を振り返ったり、製作品を自己評価したりする（記述）
- ・個の変容や学び方の価値付けと次時への方向付け

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実